

# 北区の部屋だより

## 第36号

修正版

2012年7月

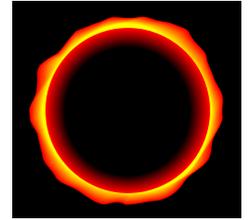


刊行物登録番号 23-2-076

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 24 年 7 月発行

北区こぼれ話  
第35回

江戸時代の日食



5月21日(月)、日本各地で日食が観測され、東京でも雲間から金環日食が確認できました。私は家のベランダから空を見上げてはよく見えず、TVの中継画面で確認するといったことを繰り返していましたが、みなさんはご覧になりましたでしょうか。

この世紀の天体ショーが「東京」という地域で観測されたのは江戸時代、天保10年(1839)8月朔日以来のことだそうです。そこで、江戸時代の日食の様子はどうだったのか、江戸の町名主である斎藤月岑が記した『武江年表』から日食の記事を確認してみましょう。記されていたのは寛永13年(1636)から嘉永5年(1852)の11回で、概ねどれくらい欠けたかを割合で示すのみ(例えば、「七分半」)でしたが、年によっては具体的な様子も書き記しています。その一つ、天明6年(1786)正月元日に起こった日食では「午一刻より未一刻迄、日蝕皆既。闇夜の如し」と記しています。午の刻ですので、現在の時刻でいえばお昼の時間帯。それがまるで闇夜だったと記しています。かなり大げさに描写しているのかと思えば、嘉永5年11月朔日の日食では「日蝕九分なり」と記すとともに、「闇夜にはならず、往来の時行燈を用ひる程にはあらず」と続けています。逆にいえば、天明6年の場合などでは、闇夜になり、往来時には昼でも行燈を使わなければならないほどであったということでしょう。

突然、昼に暗闇が訪れたら人びとは困惑するでしょうが、実は、江戸時代に発行される暦には、こうした日食の情報も記されていました。先にも記しました天保10年の伊勢暦では、日食の時間帯とともに「東国にてハ深く西国にてハ浅かるべし」と、各地でどのように見えるかまでも記しています。こうした情報が事前にもたらされているからでしょうか、部分日食程度では、特段、詳細に記すこともなく、淡々と日食の事実のみ記しているものも少なくありません。例えば、王子村金輪寺が記した日記では、「晴」や「曇」といったその日の天候の代わりに「日蝕」とのみ、その事実が記されています(『王子村 大岡家文書調査報告Ⅰ』)。



現在、私たちが行っている日食への反応も、何百年後には歴史として「2000年代の人びとは、日食でこのように行動していました。」などと語られるのでしょうか。ちなみに、次に東京周辺で観測できる皆既日食は2035年だそうです。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

北区図書館活動区民の会地域資料部会企画

## 北区の部屋展示

テーマ

# 時代の中の学校

—北区教育史の口絵から—

期間：6月29日（金）～  
7月25日（水）

6月30日中央図書館で行われた区民の会地域資料部会企画運営講演会「北区の学校の成り立ちについて—学校の資料から見えるもの—」に関連した展示を行います。

昭和2年  
荒川尋常小学校  
玉送り競技の練習  
(北区教育史より)



昭和2年 荒川尋常小学校 玉送り競技の練習

明治42年 荒川尋常小学校 義務教育延長第一回卒業写真（北区教育史より）



口絵1 明治42年荒川尋常小学校 義務教育延長第一回卒業写真



大正4年 滝野川第二尋常小学校  
全校朝礼（北区教育史より）

## 古文書入門講座「北区の古文書 基礎の基礎」開催！

恒例の「古文書入門講座」が5月11日～6月15日まで毎週金曜日（10時～12時）全6回開催されました。講師の保垣地域資料専門員による、北区の歴史もおり交ぜた楽しい解説が大変好評でした。  
(人気の講座のため、抽選で外れた方ごめんなさい！)

これからも続けて勉強してみてください。きっと読めるようになる・・・



## 地域資料 新着案内 (一部紹介)



書名	著者・编者・発行所
東京右半分	都筑響一 著 / 筑摩書房 発行
東京「消えた山」発掘散歩	川副秀樹 著 / 言視社 発行
東京都区制度の歴史と課題	栗原利美 著 / 米倉克良 編 / 公人の友社 発行
倍賞千恵子 出会いに感謝を	倍賞千恵子 著 / 東京新聞 制作
北区田端西台通遺跡 (第1・2分冊)	東京都埋蔵文化財センター 編/ 東京都スポーツ文化事業団 発行
白龍山寿命院東覚寺	東覚寺 発行
東京都北区議会会議録臨時会平成24年第1回	北区議会 編/発行
北区河川物語【DVD】(手話あり・なし)	北区政策経営部広報課 編/発行

# 北区の部屋だより

## 第37号

2012年8月



刊行物登録番号 23-2-076

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 24 年 8 月発行

### 北区こぼれ話 第36回

### てつどう き ひ てんせつ 鉄道忌避伝説から鉄道アクセス道路建設へ — 王子駅をめぐる地方名望家像の転換 —

「鉄道忌避伝説」とよばれる話があります。例えば、中央線が、調布や府中を通っていないのは、地元の人たちが反対したからだとか、栃木市の舟運業者らの反対により、東北線は小山を通るルートへ変更になったという類の話です。

これらが事実なら、明治初期、地方名望家たちの多くは、鉄道を嫌っていたことになりま。しかし、最近、ほとんどの鉄道忌避伝説には、根拠がないことが証明されつつあります。その理由は、つぎのとおりです。①反対意見を示す史料が見あたらない。②明治初期の機関車は力が弱かったので、勾配（坂道）を避け、平坦なルートが選ばれた。ルート変更の余地はほとんどない（のちの「我田引鉄」＜政治家が選挙区に鉄道を引くこと＞は、鉄道技術の発達により可能になった）。③建物の立ち退き費用や地価の高さを考慮すれば、最初から市街地を避けて計画される。

王子や板橋にも鉄道忌避伝説があります。旧中山道板橋宿の人々が、宿場が衰えるのを恐れて鉄道に反対したため、王子に駅ができたという話です。明治16年開通の上野一熊谷間の鉄道敷設にあたり、板橋の名望家らが反対したため、板橋ではなく王子を通るルートへ変更されたというのです。この話にも、もちろん根拠はありません。しかし、笑えないことに、昭和29年に刊行された『板橋区史』に史実として掲載されているのです（当時の自治体史はそういうものでした）。

もちろん、板橋区の名誉のために述べておきますが、科学的歴史学の成果を踏まえた平成11年刊行『板橋区史』通史編下巻には、鉄道忌避の話は出てきません。それどころか、明治18年の品川一赤羽間（今の埼京線）開通にあたって、板橋駅の設置を求める運動があったことを書いています。

確かに、鉄道ができると、古い街道がさびれるのは事実です。上野一熊谷間に鉄道が敷かれて以降、旧中山道を通る人は以前より減り、板橋宿の賑わいは衰えていったそうです。さらに、泣きっ面に蜂とばかりに、明治17年、板橋宿に大火事が発生しました。

一方、王子は、王子製紙や印刷局抄紙部など、近代工業の街として、発展していきました。そこで、下板橋宿の戸長（村長のようなもの）花井源兵衛は、王子と板橋宿の間に新しい道路をつくることを計画しました。板橋方面から王子の工場へ、職工さんたちが通いやすくし、また、王子駅との間で鉄道輸送用の荷物を運びやすくすれば、板橋宿も工場や鉄道の恩恵にあずかれるとの思いからです。

そして、つくられたのが、板橋と王子を結ぶ王子新道でした。王子新道は、板橋区旧中山道の仲宿交差点、石神井川の金沢橋、埼京線王子街道踏切、中央公園文化センターの前、王子本町交番の前を通り、王子の権現坂で岩槻街道へ合流する道です。地域の発展のために、駅や工場とのアクセスを改善するという発想は、先進的で、現在のまちづくりに通じるものがあります。明治初期の地方名望家たちは、鉄道開通などの文明開化に否定的だったのではなく、花井源兵衛のように先進的な考えを持つ人も多かったと考えられます。なにより、全国的に、小学校の設立や自由民権運動などを展開したのは、地方名望家たちだったのですから。

お詫び

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

2012年7月号「北区こぼれ話第35回」の1行目の「雲間から皆既日食が確認できました」は、正しくは「金環日食」でした。訂正しお詫びいたします。

# 北区の部屋 今月の展示

期間：7月27日(金)～8月22日(水)

北区の部屋が所蔵する戦争中の回覧板を複写物にて展示します。すべて、実際に区内の家庭を回っていたものです。戦意昂揚、節約や工夫、資源回収の呼びかけなど、様々な内容のものがああります。

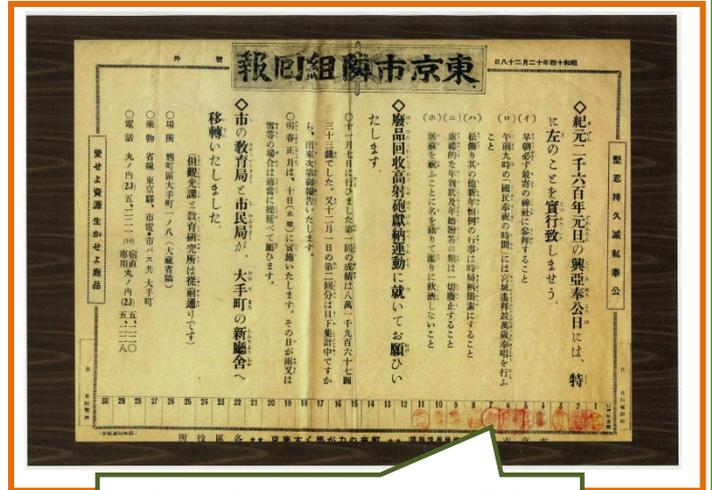
当時、日常生活は、私事ではなく「銃後の守り」として国家総力戦の一部に位置づけられていました。そして、隣組は、回覧板を受け渡し、配給や防空訓練などを実施する組織として、国家総動員体制を支えたのでした。

戦争を知っている世代も、戦争を知らない世代も、70年前の回覧板をとおして、戦争と平和について考えてみませんか。

北区平和祈念週間 関連展示

## 戦争中の回覧板

— 70年前の家庭生活 —



昭和14年12月28日の回覧版

### 北区平和祈念週間関連事業

#### 平和図書コーナー開催!!

【中央・滝野川・赤羽図書館】

平和図書コーナー（一般向け）

※中央図書館は1階入り口正面の柱前にて開催

【全館】

平和図書ミニ展示（児童向け）

※中央図書館は2階子ども図書館内にて開催

期間：7月27日(金)～

8月31日(金)

(※休館日を除く)

戦争や平和に関する図書を集め平和図書コーナーを設けます。

戦争を知らない大人や子どもたちに、平和について考えるきっかけとしていただきたいと考えています。

ぜひお立ち寄りください。

### 「北区が登場する本のリスト」に掲載されている本にマークを付けています。

このマークが本の背表紙に貼られています。



北区立図書館では、利用者の皆様にご協力いただき、

「北区が登場する本のリスト」を作成し、各図書館の地域資料コーナーやホームページで公開しています。

8月から、このリストに掲載されている本に目印として「北区コミュニケーションマーク(さくらマーク)」を付けて一目でわかるようにして行きます。

このマークの付いている本の、どこかに北区に関する言葉や記述が出てきます。

ぜひ、ご覧になってみてください。

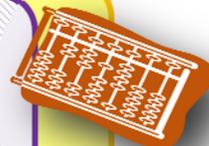
また、今後も引き続き「北区が登場する」本を見つけた方は、各図書館の窓口にお知らせください。

情報をお待ちしています!



### 北区こぼれ話 第37回

### 江戸時代の<sup>ぜにかんじょう</sup>銭勘定 くろくせん ～九六銭の話～



突然ですが、江戸時代に<sup>ぜに</sup>銭100文<sup>もん</sup>持っていたとして、1杯16文の<sup>そば</sup>蕎麦を何杯食べられるか、そして、手元に何文残るかわかりますか？普通に考えれば  $100 \div 16$  を計算して、「6杯食べて4文あまる」という結論に至ると思われそうですが、実は、ちょうど蕎麦6杯の値段となり手元には1文も残りません。「えっ?!」と思われるかもしれませんが、これが江戸時代の<sup>ぜにかんじょう</sup>銭勘定です。

そもそも、江戸時代には「<sup>くろくせん</sup>九六銭」といって、銭96枚の穴に<sup>こよ</sup>紙縫りを通し（これを「<sup>ぜに</sup>銭さし」といいます）、100文とする慣例がありました。すなわち銭100文といっても、実際には1文銭96枚なのです。どうしてこんな慣例が出来上がったのか、現在でも定かではありませんが、96が2や3、4、6、8など多くの数で割り切れることから、計算の便利さを理由に成立したとも考えられています。ですので、16文の蕎麦が6杯で<sup>もんせん</sup>1文銭96枚、すなわち100文なのです。

では、全ての場合において1文銭96枚で100文として通用したかと言えば、そうではありません。「<sup>ちようせん</sup>丁銭」という計算方法もありました。丁銭とは、銭100枚を100文として通用させる計算方法で「<sup>ちようひやく</sup>丁百」ともいいます。例えば、<sup>きんすしやくようしゆうもん</sup>金子借用証文など、<sup>きんせんたいしやく</sup>金銭貸借にかかわる古文書などで、「<sup>かん</sup>銭〇貫△△文、但し丁銭」と記したものが数多く見受けられますが、この場合、<sup>かん</sup>銭貨は100枚で100文と数える計算方法であることを示しています。もし、丁銭と記していなかったら九六銭で計算することになります。



かつて、北区史編纂のおり、<sup>ひんぱん</sup>銭104文という代金が頻繁に記されている伊勢道中日記を読んだことがあります。当時は、何か中途半端な値段だなあとぐらいにしか思っていなかったのですが、よくよく考えれば1文銭100枚を支払った金額で、非常にキリのいい値段であったことが理解できました。

江戸時代の古文書を読む上では、結構、重要な知識で、知らないと単純に合算して総計を出すなど、間違った計算をしてしまうこともあります。それで、みなさんが困ることは無いと思いますが、まあ、どこか頭の片隅でも覚えておいてください。

## 北区の部屋 展示

今は昔のことですが…  
～10年前の北区～

期間：8月24日（金）～  
9月26日（水）  
場所：「北区の部屋」  
企画展示コーナー

ご存知「北区の部屋」は、北区の昔がわかる場所ということコンセプトの一つに据えています。一口に昔といってもその範囲はさまざま。ごく最近の話だと思っていたけれど、今となっては昔になってしまった、そんな出来事もあるのではないのでしょうか。そこで今回の展示では、この10年に絞って、北区の風景がどのように変化しているのか見ていきたいと思ひます。果たして10年で北区はどう変わったのでしょうか?!

## 地域資料 新着案内（一部です）



書名	著者/編者/発行所
一日乗車券で出かける東京バス散歩	加藤佳一/著 洋泉社/発行
地図と楽しむ東京歴史散歩（都心の謎篇）	竹内正浩/著 中央公論新社/発行
ふるさと北区財政白書 平成24年度	北区政策経営部財政課/編集・発行
路傍の庚申塔	芦田正次郎/著 慶友社/発行
TRAVEL=STYLE東京 2013	成美堂出版/発行
税TODAY 2012年度版	北区区民部税務課・収納推進課/編集・発行
江戸の神社・お寺を歩く 城東編/城西編	黒田涼/著 祥伝社/発行
[生誕120年]芥川龍之介が暮らした田端【DVD】	北区政策経営部広報課/編集・発行
僕は人も街も再生する酒場のプロデューサー	浜倉好宣/著 商業界/発行
学校法人武蔵野学院創立百周年記念誌	武蔵野学院/発行
思い出の赤羽文化センター30年の歴史	北区立赤羽文化センター/発行
江戸東京の地名散歩	中江克己/著 ベストセラーズ/発行
公園の時間 12人の達人と巡る、大人の東京公園ガイド	交通新聞社/発行
北区イメージ戦略ビジョン（KISS）第2次行動計画	北区政策経営部広報課/編集・発行
東京バル案内（ぴあMOOK）	ぴあ/発行
中学生モニター活動記録 平成23年度	北区政策経営部広報課/編集・発行
北区中小企業支援ガイド 平成24年度版	北区地域振興部産業振興課/編集・発行

中央図書館  
「北区の部屋」では、  
北区の歴史に  
関わる資料を  
探しています!!

皆さんのお宅に、北区に関わる古い写真や地図・文書などは眠っていませんか？ 中央図書館「北区の部屋」では、このような資料を地域資料として収集しています。江戸・明治期だけでなく、大正・昭和の資料も地域を知るための大変貴重な資料となりますので、ぜひご一報ください。

よろしく  
お願い  
します!





### 北区こぼれ話 第38回

### 江戸時代の「金子借用証文」 今いくら?!

借用書

北区内に限らず、地域で古文書などを調査していると、最も目にする古文書は金子借用証文や<sup>しつちしょうもん</sup>質地証文（土地を質に入れて金銭を借用する際に作成された証文）といった財産に関する証書類です。これは、数多く作成されていたことから、結果として残存している比率が高いという側面もありますが、何より家の財産に関する証文ですので、各家々で大切に保管され、現在に至っていることを示しているものと思われます。

さて、こうした金子借用証文、所蔵者からは、これは返してもらったのか？そして、返済されていない場合、この金額を返してもらうことができるのか？と聞かれることがあります。当然、所蔵者も本気で言っているのではなく、話題の一つとして冗談程度に話しているのですが、答える方としてはあまりいいかげんなことは言えません。

実は、江戸時代の金子借用証文は、もし返済がなされていれば、証文に記した署名部分を切り取るなど、明らかに<sup>ほご</sup>反故したとわかるような<sup>ほどこ</sup>細工が施されるので、現物を見れば返済の有無を判断することができます。そして、実際には、かなりの確率で返済が行われていない証文であることが多いのです。では、そこに記されている金額を、現在、請求できるのか、という点ですが、「もう時効でしょう」といってしまえばそれで話はおしまいですが、ここは<sup>ひとくふう</sup>一工夫。以下、私がよく使う説明です。

ここに<sup>きん りょう</sup>金30両と記されていますが、明治4年(1871)に「<sup>しんかじょうれい</sup>新貨条例」という法律が制定され、<sup>かんざん</sup>金1両が1円と定められました。金1両を円に換算する上で、正式に定められた法律はこれだけなので、相手側にこの証文を突き付けても30円返してくれるだけでしょう。そして、もしそうなれば、この証文は返済の証拠として相手側に渡さなければなりません。それならば、家の歴史として、この金子借用証文を大切に保管されていた方が30円を受け取るよりよろしいかと思えますが……。

<sup>しか</sup>自家の歴史を伝える古文書の大切さを含んだ、なかなかいい説明かとも思っているのですが、いかがでしょうか。

## 「北区の部屋」9～10月期展示

空から「昔の」北区を見てみよう！  
～航空写真で見る戦後の王子地区～



当時の王子付近



日程：9月28日（金）～10月24日（水）  
場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

中央図書館では、北区に関するさまざまな資料を所持していますが、航空写真もその一つ。今回の展示では「北区の部屋」が所蔵する昭和22～23年（1947～48）の王子地区の航空写真を題材に、北区が成立した頃の地域の様子を紹介します。

## 東京文化財ウィーク 2012

東京文化財ウィーク期間 企画事業

### 公開歴史講座

「北区のフロンティア浮間  
～水を求めた140年～」



川に囲まれながらも、水に恵まれなかった北区浮間の近代史を語ります。

日時：10月27日（土）  
午後2時～4時

場所：中央図書館3階ホール

講師：黒川徳男 地域資料専門員

定員：50名（抽選）・中学生以上

申込方法：往復はがきで10月15日（月）必着

※詳しくは、北区ニュース10月1日号をご覧ください。  
だくか、窓口または下記へお問い合わせください。

申込・問い合わせ先：中央図書館 事業係

電話 03-5993-1125

東京都教育委員会は、11/8文化の日を中心に都内全域の文化財の公開や文化財に関わる様々な事業を実施し、都民の皆さまに文化財に触れる機会や、文化財の保護・管理に様々な形で参加できる「東京文化財ウィーク」（10/1～11/30）を開催します。

中央・滝野川・赤羽図書館ではガイドブックを配布しています。（ガイドブック配布は在庫分が終わり次第終了となります）



中央図書館「北区の部屋」では、北区の歴史に関わる資料を探しています!!

皆さんのお宅に、北区に関わる古い写真や地図・文書などは眠っていませんか？ 中央図書館「北区の部屋」では、このような資料を地域資料として収集しています。江戸・明治期だけでなく、大正・昭和の資料も地域を知るための大変貴重な資料となりますので、ぜひご一報ください。

よろしく  
お願い  
します!



# 北区の部屋だより

## 第40号

2012年11月



刊行物登録番号 23-2-076

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 24 年 11 月発行

### 北区こぼれ話 第39回

### 西ヶ原から韓国へ — 禹長春博士のこと —

韓流<sup>はんりゅう</sup>ドラマや韓国料理のブームの一方、領土をめぐる問題などもあり、日本人が持つ韓国のイメージは人により様々なようです。

韓流の俳優や歌手に詳しい方は多くても、禹長春（ウ・ジャンチュン）博士〔日本名、須永長春（すながながはる）〕を知る人はほとんどいないでしょう。彼は、戦前、西ヶ原にあった農林省の農事試験場に勤務していました。角田房子著『わが祖国 禹博士の運命の種』（新潮社、1990年）によれば、韓国では彼のことを近代農業の父と呼んでいるそうです。

知り合いの韓国の日本史研究者に聞いたところ、禹博士の名は、確かに歴史の教科書にも掲載されているそうです（ただし、誰もがその名前を暗記しているわけではないとも言っていましたが…）。

禹博士の父は、韓国の軍人で、ある政治的事件に関係したため国を追われ、明治時代に日本へやってきました。そして、日本人女性と結婚し、明治31年（1898）長春が生まれます。その父は、年若くして世を去り、彼は母親に育てられます。

そして、禹博士は、東大農学部に進みます。大正8年（1919）西ヶ原にあった農林省の農事試験場に就職し、約7年間、ここで植物の遺伝についての研究に没頭しました。しかし、大正12年（1923）の関東大震災の後、西ヶ原では民家が増えつつあり、また、農事試験場の水田はすべて借地で、畑は他の官庁の用地とされるなど、農業研究の場所としては条件が悪くなってきました。そのため、大正15年（1926）、彼は、西ヶ原から埼玉県鴻巣<sup>こうのす</sup>の試験地へ異動します。

そして、昭和11年（1936）に「種の合成」という論文で、東大から博士号を授与されました。これは、今日のバイオテクノロジーの考え方に通じる内容を含むもので、戦前としては最先端の研究でした。昭和12年（1937）に退職し、京都の種苗会社<sup>しゅひょう</sup>の技師長・農場長になります。

戦後は、独立を回復した父の祖国、韓国へ渡り、農業の発展に尽くしました。当時の韓国は、食糧不足に苦しんでおり、禹博士は、食糧増産のため、農作物の改良や人材の育成に活躍したのです。なお、大統領から農林部長官（日本の農林大臣に相当）就任を勧められたものの断ったそうです。種子の改良と後輩の育成以外考えていないという理由からでした。

角田房子著『わが祖国 禹博士の運命の種』（新潮社、1990年）は、北区の部屋にあります。興味のある方は是非ご一読ください。



西ヶ原の農事試験場  
（『大日本名所図会』78号、  
東陽堂、1910年）

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

## 北区の部屋 今月の展示

期間: 10月26日(金)~

11月21日(水)



## 知っているようで知らない? 浮間の歴史あれこれ

少子高齢化が進む北区の中で、若いファミリーが増え続けている街、それが浮間です。

浮間といえば、桜草、大きな池のある浮間公園、新河岸川と荒川、浮間舟渡駅などのイメージをお持ちの方が多いことでしょう。浮間は、農村から、工場のまちを経て、マンションが建ち並ぶ街へと変化してきました。

新しく引っ越された方や、ほかの地域にお住まいのみなさんの中には、浮間の歴史について「くわしくは知らない」という方も少なくないでしょう。

今回の展示では、そんな浮間の歴史について、ほんの少しだけご紹介します。



浮間の酪農（『北区政概要』昭和29年版）

戦後の一時期、浮間では、乳牛を飼うことが奨励されました。



図書館活動区民の会地域資料部会

### 「北区の歴史を学ぶ会」

図書館活動区民の会地域資料部会では北区に関する地域資料、特に歴史資料の保存や活用について様々な取り組みを行っています。地域資料を考える上で、まずは北区の歴史を学ぼう！と開催されているのが「北区の歴史を学ぶ会」です。

ご興味のある方はどなたでも参加できます。ぜひ一度お越しになってみてください！

毎月第4火曜日 午後2時~4時 開催  
(月によって変更になる場合があります。)

場所：中央図書館 3階区民活動コーナー  
11月の開催は 11/27 (火) 午後2時~

内容：北区の景観について

毎回、学習するテーマは変わりますので、これまで参加したことがない方でも大丈夫です！

お問い合わせは 03-5993-1125

中央図書館 事業係まで

## 北区の部屋 レファレンス あれこれ

北区の部屋では、北区に関するさまざまな質問を受けています。その一端をご紹介します。



### Q、中央図書館前にある中央公園の北側(旧稲荷公園)は昔、神社だったというのは本当？

A、「旧稲荷」の名のとおり、「旧稲荷公園」は「四本木稲荷神社」という神社があった場所。かつてこの図書館を含む一帯は、東京第一陸軍造兵廠という軍の工場の敷地でしたが、四本木稲荷神社も工場の敷地内にありました。

なお、滝野川3丁目にある滝野川四本木神社の本殿は、かつて十条台にあった四本木稲荷神社の本殿を移築したものだと言われています。

参考文献：北区立郷土資料館調査報告第1集

：北区史 民俗編1



十条台にあった四本木稲荷神社